

1. 良質で安定多収な米づくり

良い苗づくりは稲作の基本

稲作の基本は、苗づくりから。

健苗育苗で活着を良くするとともに、欠株や植傷みを防止しましょう。

1 箱育苗 床土・種籾の準備

- **床土** 1箱当たり3.6～4ℓ 深さ2cmになるよう確実に入れて、土が乾かないようにしておきます。

10aあたり18～20箱の苗を使う場合、4～5袋(20kg袋)の床土を準備します。(覆土を含む)

- **種籾** JA米は、必ず種子更新が必要です。

特別栽培や有機栽培などで無消毒種子を使用する場合は、温湯消毒かタフブロックによる消毒をしましょう。

JAが販売する消毒種子については、モミガードC・DFが処理されています。

2 育苗期の防除

病害虫名等	農薬名	使用量、希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
箱消毒	イチバン	500～1000倍	育苗作業開始前まで	瞬時浸漬または箱散布	
苗立枯病(ピシウム菌)	ナエファインフロアブル	2000倍 1～0.5L/箱	播種時	土壌灌注	2回以内
苗立枯病(リゾープス菌)	ナエファイン粉剤	6～8g/箱	播種前	床土均一混和	1回
苗立枯病(フザリウム菌)					

※イチバンで消毒後の残液は河川等に流入させないこと。

※ナエファインは苗立枯病以外にムレ苗防止や根の生育促進、活着促進の効果もある。(希釈倍数が異なる)

3 浸種

- **浸種の目安**

【浸種の目安】

品 種	積算温度
つきあかり	100℃
つや姫	100℃
コシヒカリ	70～80℃
きぬむすめ	70～80℃

【基本】 積算温度＝水温×日数

※「コシヒカリ」と「きぬむすめ」は芽が伸びやすいので、70℃～80℃で確認しましょう。

- **浸種は、室内で水温10～15℃で行います。**

☆必ず水温計を使って、適正水温を保ちます！

(例) 10℃なら7～8日 15℃なら5～6日

水温が10℃以下の低水温で浸種すると発芽が不揃いになったり、発芽しないことがあります。

- **積算温度は品種や採種年産によって異なることがあります。**

- **水量は、種籾の体積の2倍以上とし、積み重ねないようにしましょう。**

- **袋詰めめの注意**

袋内の外側と内側では芽がばらつきます。種籾は袋に半分程度にして催芽揃いを良くしましょう！

- **浸種**



4 催芽

催芽適温	催芽程度	催芽時間	注意事項
30℃	1～2mm ハト胸程度	18～24時間	伸ばし過ぎると根や芽が傷ついたり、折れて出芽の揃いが悪くなる

☆育苗器内の温度が32℃を超えると細菌病が発生しやすくなります。

サーモスタットの作動確認を必ず行いましょう。

●十分な吸水がしてあれば、速やかに発芽します。伸ばし過ぎに注意しましょう！

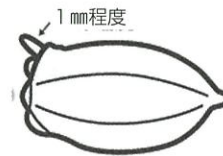
つきあかりや酒米など大粒の品種は、

やや時間がかかることがあります。

きぬむすめは他の品種に比べて発芽が

早いので伸ばし過ぎに注意してください。

●催芽



●催芽ができたら吸水性のある敷物（新聞紙、ゴザ等）に広げ、手に付着しない程度まで乾かして播種しましょう。

5 播種 ～薄まきで健苗を作ろう～

出芽適温	出芽の目安	出芽日数	注意事項
30℃	1 cm	約2日	32℃を超えると細菌病が発生しやすくなります。

●薄播きを行い徒長苗、ムレ苗の発生を防ぎましょう。

●老化苗防止のため、田植日を基準に播種日を決めましょう。

【播種量と育苗日数】

稚苗	乾粉	120～150g/箱	20～25日	葉齢 2.0～2.5
中苗	//	80～120g/箱	25～35日	// 2.5～3.5
成苗	//	40～100g/箱	30～45日	// 3.5～4.5

※移植時期が遅くなるほど育苗期間の温度が高くなり、育苗日数は短くなる。

機械の進化により移植時の掻き取りを小さくし、少ない箱数で移植が可能に。

密播、密苗	乾粉	200～300g/箱	～20日まで	葉齢 ～2.0程度
-------	----	------------	--------	-----------

6 出芽以降の温度管理

		加温出芽	無加温出芽	緑化	硬化
日数の目安		2日	5～7日	2～4日	15～20日
温度	昼	30℃	20～30℃	20～25℃	5～25℃
	夜	30℃	10～20℃	10～20℃	